

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	中野区療育センターゆめなりあ		
○保護者評価実施期間	令和6年12月15日 ～ 令和7年1月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	182 (回答者数)	64
○従業者評価実施期間	令和6年12月15日 ～ 令和7年1月6日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	35 (回答者数)	32
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種協働し、また利用児に対して手厚い支援体制でサービスを提供している。	・事業所内の他のサービスとも連携して情報共有をしながら支援を提供しています。 ・グループ療育でも保育士のみならず、公認心理師や言語聴覚士、作業療法士、理学療法士も支援に関わっています。	・クラスと個別担当職員などの情報共有を充実させるための、仕組み作りや、時間の確保。
2	部屋や大型遊具など設備が充実しており、活動のバリエーションが広い	・作業療法士が運動遊びに入ること、子どもの身体の使い方や遊び方に合わせた遊具の設定や使い方についても学びながら取り組みました。 ・児童連携会議を通して他事業所での取り組みなど情報を共有しながら行いました。	・外部研修を活用し、より幅広い遊びのアイデアや支援の幅を広げていけるようにします。
3	事業所内外での研修機会が多い。	・外部スーパーバイザーによる研修を各職種ごとと、グループ療育で行っている。また事業所内での事例検討や、法人の他の児童発達支援事業所との連携会議や、合同での研修会を行っている。 ・正夢の会全体でも権利擁護、虐待防止をテーマの研修や、他事業所への実務者研修、新任研修など様々な研修を実施している。	・eラーニングの職員の受講率を上げる。 ・発達支援の最新の動向を確認し、先駆的な取り組みをしている事業所の見学など、日々変化していく発達支援の動向に注視して研修を企画していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	契約児童数が多いことにより、会議、ミーティング、間接業務など業務内容が多い。	・区立施設として一人でも多くの方を受け入れていけるための運営を行っている。	・ICTの活用など、より効率の良い作業、情報共有の方法を考えていく。
2	保護者同士の交流機会が少ない	・保護者会、勉強会は開催しているが、ペアレントトレーニングや、保護者同士の交流を目的とした場がない。	・今回のアンケートでも保護者から要望をいただいたことを踏まえて、保護者同士の交流機会など企画していきたいと思います。
3	地域とより交流する機会を拡げていく。	・子どもの特性上、新規の場所や相手に対しての緊張が強いが、成長に合わせて様々な場面や人と関わる機会も一つの支援と考える。	・地域の園の行事に参加させていただくだけでなく、事業所でも外部の子どもが参加できるような行事を通して、慣れた環境の中、遊びの中で地域の子ともと関われるような機会を考えていきたいと思っています。